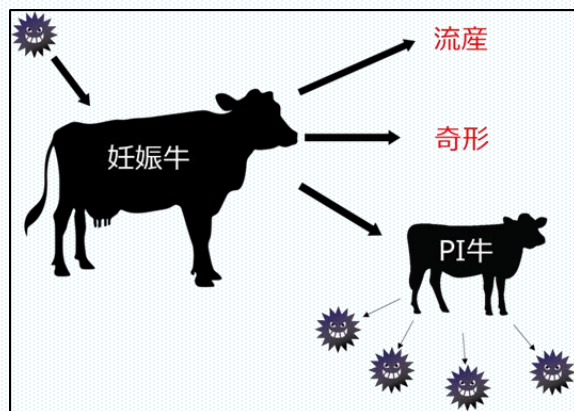


牛ウイルス性下痢 (BVD) に注意しましょう!

1 妊娠牛は特に要注意!

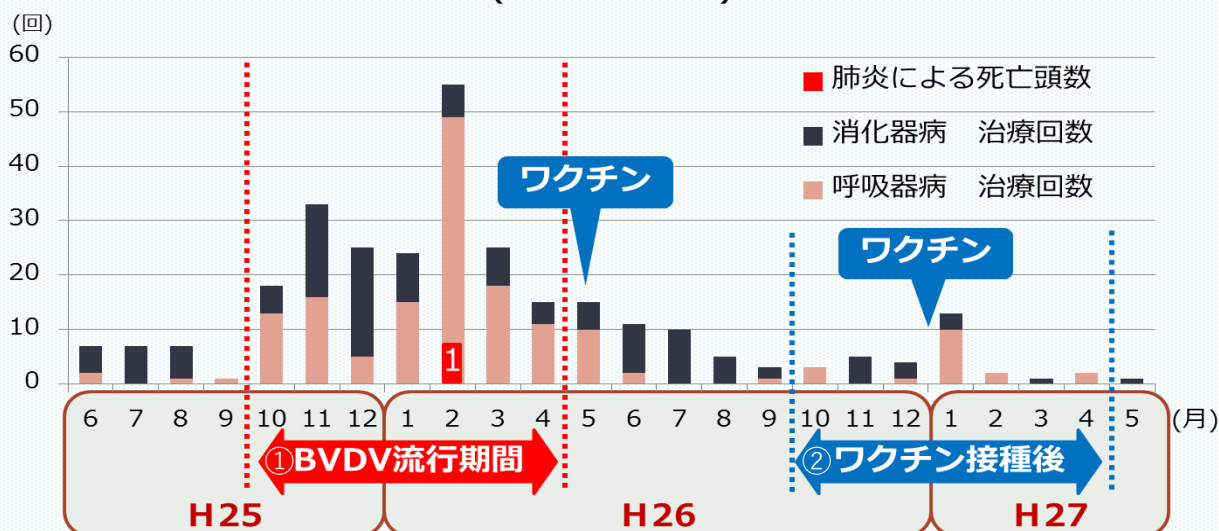
- 牛ウイルス性下痢 (BVD) は下痢、呼吸器症状を引き起こすウイルス性の伝染病です。
- このウイルスが妊娠牛に感染した場合、生涯ウイルスを排泄する**持続感染牛 (PI牛)** と呼ばれる子牛が生まれたり、流産や異常産を引き起こすことがあります。
- PI牛は慢性下痢、発育不良を示し、**治療方法がありません**。
また、PI牛は糞尿、唾液、鼻汁に大量のウイルスを排泄するため、農場の感染源となります。



2 経済被害は甚大!!

- この病気は知らぬ間に農場に侵入して経済被害を及ぼします。
- 診療回数が増え、繁殖成績が低下し、流産が発生します。

【 県内BVD流行農場(乳用育成牛)の疾病発生成績 】



- 約160頭規模の乳用育成牛預託牧場で、7か月間で少なくとも **約230万円** の損失が出ました(①流行期間と②ワクチン接種後の比較)
- ワクチン接種後はBVDだけでなく、**農場全体の呼吸器病や消化器病**の治療回数が**顕著に減少**しています。

3 予防対策に取り組みましょう！

○ ウイルスの侵入防止

畜舎や車両の消毒、毎日の観察による異常牛の早期発見、導入牛の隔離・観察など**飼養衛生管理基準の遵守**を徹底しましょう。

消毒には、アルコール系、次亜塩素系、逆性石けん等が有効です。

○ PI牛の早期とう汰

PI牛に対する治療方法はありません。

PI牛が確認された場合は速やかに**自主とう汰**を行い、感染の広がりを防止しましょう。

○ ワクチン接種の励行

- ・ この病気はウイルスをまき散らすPI牛との接触により感染します。
- ・ BVDの発生は**6種混合ワクチンの接種**で予防できます。
- ・ 6種混合ワクチンはBVDだけでなく、**県内で発生が確認**されている以下の**多様な感染症に効果**があります。

①BVD（1型）

②BVD（2型）

③牛伝染性鼻気管炎

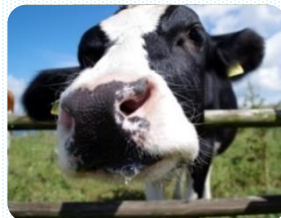
④牛RSウイルス病

⑤牛パラインフルエンザ

⑥牛アデノ7型ウイルス病



- ・ **公共牧場や預託先で感染する例もある**ので特に**預託前の育成牛には生ワクチンの接種**をおすすめします。



※ 妊娠牛に接種しても、胎子への垂直感染の防止が期待されるワクチン「ボベラ®」が令和5年4月に承認されました。今後の予防対策への活用が期待されます。

問い合わせ先

岩手県中央家畜保健衛生所 019-688-4111 岩手県中央家畜衛生協議会 019-688-4015

岩手県県南家畜保健衛生所 0197-23-3531 岩手県南家畜衛生推進協議会 0197-24-5532

岩手県県北家畜保健衛生所 0195-49-3006 岩手県北家畜衛生協議会 0195-49-3040

一般社団法人岩手県畜産協会 019-694-1300